

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム出愛荘
(ユニット名)	1F 石楠花ユニット
所在地 (県・市町村名)	大津市
記入者名 (管理者)	田茂井宏行
記入日	平成 20年 12月 30日

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
I-1. 理念と共有					
1	1	<input checked="" type="checkbox"/> ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念は変わらないままで、日々のサービスに取り組んでおります。		
2	2	<input checked="" type="checkbox"/> ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼時に理念を読み上げ、職員にも入居者のケアや、ケアマネジメントに反映している。		
3		<input type="checkbox"/> ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族、各自治体には伝えているものの、近隣周辺においては全てにご理解を得ているかについては不十分と感ずることもある	○	自治体主催の行事には参加させているものの、今年度は近隣周辺の方に行事等の招待をする機会が少なかった
理念と共有 3項目中 2項目					
I-2. 地域との支え合い					
4		<input checked="" type="checkbox"/> ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶程度のものや、利用者がフラッと外に出た際、飼い犬を触らせてくれたりとするが、極端に出愛荘より気軽に立ち寄りということまではない		
5	3	<input checked="" type="checkbox"/> ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催の催し物に入居者が参加したりして、今後されなる幅を広げていきたい		
6		<input checked="" type="checkbox"/> ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	主に管理責任者が地域ケア会議の下、各自治会、各介護保険事業所等の会合に出席して取り組んでいる		
地域とのつきあい 3項目中 3項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I-3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	<input checked="" type="checkbox"/> ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義、理解することはもとより、各項目に対して、各職員お互いがどの様なとらえ方をしているか再確認し合えるツールの手段としていきたい		
8	5	<input checked="" type="checkbox"/> ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出愛荘の活動報告だけでなく、会議は介護保険制度そのものの相談、介護現場で働く関係者に対して気遣う上での介護保険制度改革のご意見も出ています。		
9	6	<input checked="" type="checkbox"/> ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	大津市より学生対象の施設見学の依頼もあり、その際に情報をいただいて質の向上に取り組んでいる	○	平成21年より大津市の介護相談員派遣事業を依頼されております。
10		<input checked="" type="checkbox"/> ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度申請を検討している方も含め、出愛荘入居全体で約3割近く活用している。また地域包括センター、社会福祉協議会、成年後見制度に詳しいNPO団体の体制もしっかりしているのでいろいろとお世話になっている		
11		<input type="checkbox"/> ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	徹底しているものの、法律そのものについて学ぶ機会はない。	○	関心のある職員もいるため、学習会を設ける項目であるが、今年には行えなかった
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 4項目					
I-4. 理念を実践するための体制					
12		<input checked="" type="checkbox"/> ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出愛荘で対応できる内容のケア、起こらないよう努力はするがひよっとしたら起こりうるリスク面や、これまで退去のケースとなった事例等を伝えることで取り組んでいる		
13		<input checked="" type="checkbox"/> ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情など出た場合は職員会議、ユニット会議に出し、改善に努めている。この過程を代表で管理者が家族等に説明している		今後も利用者からの意見、不満、苦情に耳を傾け、実現できることは何か、あるいは実現できなくても、代わりに行なえることはないかを話し合い、取り組んでいきたい
14	7	<input checked="" type="checkbox"/> ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	全スタッフ、日々の生活様子の写真に残して差し上げたり、パソコンの動画も見てもらい、またケース記録も見せる等、用途に応じて報告している		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	<input checked="" type="checkbox"/> ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接申し出てくれる家族もあり、家族同士で相談しあうこともあり、それが意見等もあれば、行事等の手伝いの打ち合わせであったりもする	○	今年はお愛荘主催する形であったが家族会を行い、様々なご意見を頂いた。
16		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に全体の職員会議をその場に位置づけ、意見を聞くようにしている。		
17		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急受診、行事、職員体調不良等で休日、早退等もあるため、事業所運営を理解してくれる約2～5時間だけのパート職員を数名活用している	○	毎日ではないが夜間帯に3人体制を必要と感じる場合もあり、運営推進会議等で相談もしている。
18	9	<input type="checkbox"/> ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はないものの、離職率高く職員数が安定していない上で改善が必要	○	安定した職員数の確保が急務
理念を実践するための体制 7項目中 6項目					
I-5. 人材の育成と支援					
19	10	<input checked="" type="checkbox"/> ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修を受ける機会を与え、ほとんど職員は参加し、全体会議にて報告を行なっている。	○	育成計画において見直しの検討も考え、OJTも行ないやすくしていきたい
20	11	<input checked="" type="checkbox"/> ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム職員懇親会や、懇親会主催の講演会、研修会などに参加している		
21		<input type="checkbox"/> ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	離職率高いことから、現在行なっているものよりも更なる工夫が必要と感じる	○	早急な対策対応が必要である
22		<input type="checkbox"/> ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	離職率高いことから、現在行なっているものよりも更なる工夫が必要と感じる	○	早急な対策対応が必要である
人材の育成と支援 4項目中 2項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
II-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		<input checked="" type="checkbox"/> ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居における面談時の前に、ご本人にも見学に来てもらうこともあれば、それが無理な人には主にリーダーが主体となって、訪問、在宅サービス先(入院病院など)の利用様子を見学に行ったりして努めている		
24		<input checked="" type="checkbox"/> ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申請時、原則ご家族には見学に来てもらうようお願いしており、その時にサービス申請にいたる経緯を伺い、時間をかけて相談に応じている		
25		<input checked="" type="checkbox"/> ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療的な対応が必要であるなら、可能かどうか確認の上でも協力医と相談したり、医療、介護保険以外においても家族以外の本人に関わりのある地域の皆さんの協力体制も確認することがある		
26	12	<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が来られるのであれば、入居までに何度か見学に来てもらったりして、入居後もご家族の協力を頂きできる限り不安のないように慣れてもらうようにしている。		
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 4項目					
II-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	<input checked="" type="checkbox"/> ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に過ごす時間や会話を大切に、利用者のことをよりよく知ることができるよう努力している		利用者と一緒に過ごす時間、会話を大事にしています
28		<input checked="" type="checkbox"/> ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	外出(外食)や、協力病院以外の定期受診には必ず連れて行ってあげたり、時にはご家族が自分以外の他の入居者の方への気遣いもある		
29		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事等で出会えるきっかけ作りはあるとしても、入居者のホームでの日常生活が落ち着くようになれば、家族の心情も落ち着くようになっていきたいと思います		遠方にご家族にはメール、手紙を交換し利用者の近況を伝えていきます。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れな いよう、支援に努めている	個別ケアで故郷、生家への帰郷や、地域の皆さんの協力の下、馴染みの人と老人会、食事会に出かけたりと行なっている		
31		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関 わり合い、支え合えるように努めている	職員が業務で不安に怯える人居者から離れる場面で自ら近寄って話し相手になってくれたり、その人の個人のために始めた日課ケアをグループで行なうようにすることで関わり合いのきっかけ作りを行なっている		利用者同士で頼りあっているところもあるので職員が間に入らず見守っていることもある
32		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者 や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去されたご家族の協力を得て、家族会の講演会を行なっていただきました。		またその他の方より、利用申し込みの紹介をもしていただいた。
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 6項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
Ⅲ-1. 一人ひとりの把握					
33	14	<input checked="" type="checkbox"/> ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活で出た言葉、思い出を記録に残し、それをケアプランに反映したり、ユニット会議にて把握に努めている		
34		<input checked="" type="checkbox"/> ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申請より伺うこともあれば、入居後も本人、家族より再確認や新たなことを伺っている		ケアプランを見てご家族が自分達の思いが伝わっていると安心していただいていることもある
35		<input checked="" type="checkbox"/> ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各職員、主に入居者の日々の生活行動、動作から出た会話の言葉、顔の表情に注目して、「こんなこともできる」と捉えて把握に努めている		日々の変化が著しく、職員間で統一しづらい所もある
一人ひとりの把握 3項目中 3項目					
Ⅲ-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	<input checked="" type="checkbox"/> ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者を中心にアセスメントを行い、本人、家族、地域の方とも含め、なおかつユニット会議にて職員の考えも参考にして方向性をまとめている		
37	16	<input checked="" type="checkbox"/> ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画更新時は必要な話し合いを職員同士では会議を使い、ご家族には面会時、連絡時に思いを盛り込み作成に取り組んでいる	○	これをきっかけにしてご家族とのつながりをも大切にしていきたい
38		<input checked="" type="checkbox"/> ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の内容はもちろん、会議等で抽出された事項も含め、日々の記録に残し会議ごとにモニタリングしている		
介護計画の作成と見直し 3項目中 3項目					
Ⅲ-3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	<input checked="" type="checkbox"/> ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療処置を施した入居者が戻ることがあり、その際にご家族が付き添いで宿泊してくれた。	○	ご家族の協力が得られたケースでした。
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 1項目					

自己評価項目	外部評価項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		Ⅲ-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40		<input checked="" type="checkbox"/> ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、個人の定期ボランティア、消防局立会いの下の訓練、人権協の講演、県立大のセラピー研究等、交流も兼ねて協力している		
41		<input checked="" type="checkbox"/> ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	主に管理者が同地域だけでなく、他の地域のケアマネジャー等とも相談を行なうこともある		以前グループホーム利用しながら、他のデイサービスへ行っていたが、諸事情により行けなくなってしまったことがありました。
42		<input checked="" type="checkbox"/> ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議も含めて、その都度相談を持ちかけアドバイスを得ている		
43	18	<input checked="" type="checkbox"/> ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の先生も入居者の顔を覚えてくれたりして、定期往診、緊急受診対応を行なっている。中には昔なじみの主治医にご家族協力のもと受診にて診てもらおう方もいる		
44		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期受診の方もいれば、必要時における診察もあり、全入居者の初診時は必ずご家族も同行をお願いして、入居者、職員、ご家族、医師の各々の意見を言い合えるよう配慮している		
45		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週2回の勤務であるが、現場に入ってくれて専用の看護記録もあり健康管理に努めている。また休日においても電話等でアドバイスも行なってくれる		
46		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者の入院時は多くの職員も個人的に見舞いに行くこともあり、病院関係者より早期情報を得て早期退院に向けた対応を行なっている		
47	19	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時より意思確認を伺う書類を用意して把握している。命に関わる事項のため、容態変化時には再確認や、意思変更もある時は新たな書類に変更して確認している		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48		<input checked="" type="checkbox"/> ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出愛荘においては、事業所、医師(医療従事者)、そして家族の協力も含めて協力体制が必要と感じている		今年は事例ケースはなし
49		<input checked="" type="checkbox"/> ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	過去のケースでは医療的理由の住み替え(入院先病院、老人保健施設)であるが、それでもご家族、関係者の方とは情報交換を行なうよう努めている		
地域資源との協働 10項目中 10項目					


自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
IV-1. その人らしい暮らしの支援					
IV-1. (1) 一人ひとりの尊重					
50	20	<input type="checkbox"/> ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	個人情報管理されているものの、誇り、プライバシーに配慮した対応には、各職員反省すべき所は自覚している	○	忙しさにまぎれての対応や、言葉掛けには注意していく
51		<input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	関わる時間より、職員に直接申し出る方もいれば、入居者同士の会話により見つけたり、こちらより選択肢をいくつか出して、自己決定を行なうようにもしている		
52	21	<input checked="" type="checkbox"/> ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目安となる食事時間以外は起床、就寝時間も自由であったりと、一日の時間スケジュールは設けず、入居者の要望に合わせる形をとっている		急な外出の要望には日を改めての対応となってしまう
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 2項目					
IV-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		<input checked="" type="checkbox"/> ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	スカートの入居者には車椅子生活になってもそのスタイルで過ごしてもらい、近所の美容院に行くことや、行けない方には訪問してもらう形をとっている		近所の美容院の店員さんも入居者と顔なじみになっている
54	22	<input checked="" type="checkbox"/> ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎回食事作り手伝ってくれる方、たまに手伝ってくれる方その方の能力に合わせて職員も一緒に楽しくしている。		利用者の負担にならないよう、これからも続けていきたい
55		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族とも相談して対応につとめている		
56		<input checked="" type="checkbox"/> ④気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	介助必要な方で約2時間おきのトイレ誘導でパット内排尿でなく、トイレにてされるようになった方もおり、記録により排泄パターンを把握していく		
57	23	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴に抵抗感ある方には、仲の良い入居者が入る時に、一緒に誘うことで楽しめるよう配慮している		入浴時は本人に入浴の日と伝え納得してから入ってもらうようしている

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転の睡眠時間になっていなければ、入居者任せにしている。		
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 6項目					
IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	<input checked="" type="checkbox"/> ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	水彩画・書物好きな方、台所仕事を行なってくれる方、新聞取りに行かれる方、玄関の仏参りに行かれる方と個別に対応を行なっている。		
60		<input checked="" type="checkbox"/> ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う事はなくなったが、財布を肌身離さず持っていることで日々落ち着いて過ごされている方もいる		
61	25	<input checked="" type="checkbox"/> ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	重度者の方、車椅子生活の方に対しても、毎週水曜日のふれあいサロンを利用して外出のきっかけ作りに努めている		その日の希望に沿っての外出支援ができればいいのだが・・・
62		<input checked="" type="checkbox"/> ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族、各関係者の協力で、個別で墓参りや、ご家族との外食も行なっている。		
63		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に個人で電話を置いている。また手紙等では代筆をすることもしながら対応している		
64		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間はあるものの、時間外であっても訪問者の都合に合わせて、事前連絡なくても訪問時に一緒に食事してもらおうなど工夫している		
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 6項目					
IV-1. (4) 安心と安全を支える支援					
65		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベットから降りようとされる方に柵を使用せずマットを敷いて実践して、転倒防止に努めている	○	運営推進会議にも取り出している項目であるが、ご家族よりも命に関わるなら身体拘束必要なものではないかという意見もあり、職員も各々意見を言い合い取り組みに向き合っている

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	26	<input checked="" type="checkbox"/> ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関も9:00～19:00まで鍵を掛けない対応しており、居室にも鍵をつけていない		
67		<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	食事、記録書きはリビング内でもできることもあり、職員フロア一不在になりそうな時は、2Fユニット職員、事務所にいる職員のフォロー体制を行なうことで配慮している		
68		<input checked="" type="checkbox"/> ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員より管理しなければならないものについては入居者の方の納得の下で預かっている		
69		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ひやりはっと報告書は提出される度に必ず全体会議にて事例検討、その後のモニタリングを行ない、全職員の共通認識に取り組んでいる		
70		<input type="checkbox"/> ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会として行なうこともあるも、不定期である	○	繰り返しの訓練が必要と感じる
71	27	<input type="checkbox"/> ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練はあるものの、身につけていない	○	出愛荘なりの避難方法は考えているが、繰り返しの訓練や、その他の避難方法があるのではないかと検討は必要
72		<input checked="" type="checkbox"/> ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	これまでの事故報告書の事例を詳しく、そして現在その事故後の対応策も伝え、今後こうなりうるリスクがある場合はご家族の方も一緒になって相談して行きたいことを入居前であったり、入居して変化があればその場を設けている		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 6項目					
IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		<input checked="" type="checkbox"/> ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護師とも申し送りしたり、ユニット間だけの引継ぎもあれば、朝礼にて全体確認としても申し送り体制である		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74		<input checked="" type="checkbox"/> ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを使用することで管理体制を整えて、薬チェックも一人の職員だけでなく、他の職員と確認している	○	薬の目的、副作用について職員全員が理解、把握しているわけではないので服薬の支援と症状の変化の確認につとめたい
75		<input checked="" type="checkbox"/> ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	かんてんを使用したゼリーを作ったり、水分摂取に関しては記録表も活用しながら取り組んでいる		
76		<input checked="" type="checkbox"/> ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアを行なうことで、嚥下の低下も防げるように取り組んでいる 自力でされる方は1日2回という方もいれば、身体重度の方は1日3回という方もいる	○	舌の汚れにも注意していきたい
77	28	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は記録に残すことで確認し、入居者によっては日々の摂取量、食事時間もまちまちであったりする		
78		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	季節柄になると看護師より指示が出て、対応に取り組んでいる。		
79		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤者が食材チェックして、まな板、布巾を消毒している。		
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 7項目					
IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり					
80		<input checked="" type="checkbox"/> ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には日々の写真や花を飾り雰囲気作りに努めている		
81	29	<input checked="" type="checkbox"/> ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、懐メロを流したりして目、耳に訴える方法を取り入れている。		また利用者より、季節柄の書物、水彩画を書いてもらい、それを共有スペースに展示することで季節感を出させていただいている

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82		<input checked="" type="checkbox"/> ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	開設当初よりこちらから決めたのではなく、入居者自ら場所作りをして、日中ほぼ全員が好んでリビンで過ごされている		
83	30	<input checked="" type="checkbox"/> ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具調類持参してもらっている。入居後も必要なものをもってきてもらい思いを反映している		
84		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	極端に線引きはしてなく、各々の職員の配慮で調整に努めている		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 5項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体重度の方における排泄介助はベット上になってしまうが、その他の面においては現在のところ、開設後に後付けでハード面改修している		必要なことがあれば検討していきたい
86		<input checked="" type="checkbox"/> ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	この項目には、会議等でアセスメント、モニタリングを行い全職員確認し合っている		
87		<input checked="" type="checkbox"/> ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置いたり、駐車場のスペースも利用して、洗濯、布団干し場としても活用している		今年は小さいスペースであるが野菜作りも行なった
生活環境づくり (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中 3項目					

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
		↓○印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項目		取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
		↓○印欄
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・体調、食事、排泄、特変事項等入居者についての気付きの点は職員全員把握している
- ・職員もご家族と入居者について話す機会もたくさん取れるため、ご家族の思いも伝わってくるし、事業所としての思いも知ってもらえる機会になっている。
- ・心のつながり、思いやりが入居者のケアや、今後の介護保険そのものにもより良いものになっていくと目指しています

評価結果整理表

個 別 表	□のチェック項目数
I 理念に基づく運営	
－1. <input checked="" type="checkbox"/> 理念と共有	2 項目/3項目
－2. <input checked="" type="checkbox"/> 地域との支え合い	3 項目/3項目
－3. <input type="checkbox"/> 理念を実践するための制度の理解と活用	4 項目/5項目
－4. <input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための体制	6 項目/7項目
－5. <input checked="" type="checkbox"/> 人材の育成と支援	2 項目/4項目
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	
－1. <input checked="" type="checkbox"/> 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4 項目/4項目
－2. <input checked="" type="checkbox"/> 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6 項目/6項目
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	
－1. <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの把握	3 項目/3項目
－2. <input type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3 項目/3項目
－3. <input checked="" type="checkbox"/> 多機能性を活かした柔軟な支援	1 項目/1項目
－4. <input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10 項目/10項目
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	
IV－1. その人らしい暮らしの支援	
－1. (1) <input type="checkbox"/> 一人ひとりの尊重	2 項目/3項目
－1. (2) <input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (3) <input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (4) <input type="checkbox"/> 安心と安全を支える支援	6 項目/8項目
－1. (5) <input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	7 項目/7項目
IV－2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	
－2. (1) <input checked="" type="checkbox"/> 居心地のよい環境づくり	5 項目/5項目
－2. (2) <input checked="" type="checkbox"/> 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	3 項目/3項目

総合評価

I 理念に基づく運営 (項目/5項目)について

介護保険、成年後見制度、虐待防止法の法制度そのものについての更なる詳しい知識等は、職員も同様、各関係者の浸透度はまだ行き渡っていない。また今年度は現場職員の離職者が多かった上での検討課題はある

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 (項目/2項目)について

ご家族、地域の方とはその都度相談は行なえているため、今後も強いつながり、関係性のある対応を行ないたい。

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント (項目/4項目)について

出愛荘だけの考えにこだわらず、他の関係者とも相談しながら関わっていききたい

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 (項目/7項目)について

昨年早急な改善は災害避難方法に関して身につける訓練方法を見直して取り組むことは色々なやり方を検討しているが、しっかりとした方法までは至らずであり、今後も消防局との意見を頂戴しながら検討していきたい。

V サービスの成果に関する項目について

昨年同様、個々に当てはめると全員とまではいかないものがある。しかし目指すものは項目全てが目指すものがあるものと感じて日々のサービスにつとめております

☆サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

評価年月日: H20年 12月 30日

前回評価年月日: H19年 12月 30日

サービスの質の向上に向け取り組む課題			取り組み期間 (○年○月 ~ ○年○月まで)	改善に向けた具体的 な行動	達成度評価	次期 評価 実施 時期
評価項目 番号	優先 順位	内 容				
71 I の項 目 全 て	1	災害対策	H19年1月～	昨年色々やり方を検討したが、まだまだ具体的な所までは至っていない		
	4	理念に基づく運営	H20年1月～	離職率が高かった部分は課題である。現場職員が負担にならないよう育成から含めた改善が必要と感じる		